町長室からこんにちは

No.74

一宮町長
馬淵 昌也

先日、一宮川の新一宮大橋の近くで、燈籠流しの行事が行われました。コロナ禍ではありましたが、思っていたよりも多くの方にお越しいただき、久しぶりの賑やかな町の行事となりました。ただ、大変風が強く、燈籠がうまく流れなかったことが残念でした。

燈籠流しが一段落したところで、一宮川下流の河川敷で、花火が上がりました。5分ほどでしたが、天気がよくて空に雲もなく、遮るものがなかったので、大変鮮やかで素敵でした。これも久しぶりの花火で、大変に印象深く心に刻まれました。

思えば、一宮町の花火大会は、感染防止の観点から、3年連続で中止となりました。コロナの収束が見込めないなか、各種イベントには開催制限があります。来場者の把握や密の回避など多くの制約があり、花火大会のような大規模イベントではそれらを徹底するのが難しいことから、中止となりました。

実は一宮の花火は、町内のみならず、町外の幅広い方たちからも人気があるようです。先日、用事で八日市場に出かけたのですが、そこでたまたま知り合った若い二人の女性は、一宮の花火が大好きで、わざわざ出かけてゆく、と仰っていました。そういう声をいくつか伺っています。

来年の状況がどうなるか今から予測はできませんが、感染防止との両立ができれば是非行いたいと、観光協会長の鵜沢さんは仰っておられました。私も全く同感です。

一方で、全国各地で、再開した花火大会の会場では、さまざまなトラブルがあり、火事も起こったことが報告されています。やはり、花火の打ち上げなどの熟練を要する技術は、毎年続けることによって、はじめて安定して継承されてゆくのでしょう。コロナの影響というのは、本当に社会を大きく変えてしまう、恐ろしく深いものなのだと、改めて痛感しています。

いずれにせよ、一宮町で花火を再開する折には、安全性にも十分気を付けて、慎重に進んでゆきたいと思います。皆さまと来年こそは美しい花火を心ゆくまで楽しめることを心から期待しております。